

狗飼梨央

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 いぬがき梨央 年齢 7 歳 職業・学校名 小園小学校

0051

じしんがきたとき、わたしは、ほいくえん  
にいました。ほいくえんでは、しえんセンタ  
ーにひなんしました。すこしにわかったけど  
おかあさんがおむかえにきたのでよかったで  
す。

おうちにかえたら、おねえちゃんにつく  
えのひきたしがあいていたのでびっくりにしま  
した。

しじしんがあのときおとあかんをいって  
こ左の中ははいったおはあまわんもいたの  
ぼくはこわがたです。そしていしんが  
あまのたがたあかからてあました。  
しじしんかたまつたがよはあまあんにアイス  
あかしてあかいました。  
いえにかい、たがくつかあがはがでした。  
ぼくかあもちあてあまほうとしあがあま  
かあがはがでした。

森藤音羽

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

0053

氏名 森藤音羽 年齢 7 歳 職業・学校名 小国小学校

わたしはおうちにいました。わたしとばあ  
ばとかけくんもいました。  
わたしは、こわがったです。  
よるはせいでんになりました。もしたらお  
かあさんがろうそくをもつてきました。もし  
てわたしは、おてたのてきづかなか。たけど  
あさにならたらおかあさんがあしえそくれま  
した。

菅野忠遠

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 菅野 忠遠 年齢 7 歳 職業・学校名 小国小学校

0054

3月11日午後2時45分、我が家の前を  
 震動が来た。お母さん、お父さん、お兄さん、お姉さん、おじいさん、おばあさん、みんな  
 びっくりした。お母さんが「おねえちゃん」といって泣いて  
 くれました。お父さんが「おねえちゃん」といって泣いて  
 くれました。お兄さんが「おねえちゃん」といって泣いて  
 くれました。お姉さんが「おねえちゃん」といって泣いて  
 くれました。おじいさんが「おねえちゃん」といって泣いて  
 くれました。おばあさんが「おねえちゃん」といって泣いて  
 くれました。みんな泣いていました。

大沼あすか

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 大沼あすか

年齢 7 歳

職業

学校名 小国小学校

0055

しんさいは、いのちをなくす人もいるので、  
本当におそろしいと思います。わたしはその  
時、まだ小さくて、つきだてにいたころなの  
であまりおぼえていません。そのしんさいで  
多くの人がなくなりました。そのところが一  
般におそろしいところだと思います。これか  
ら、大きなじしんがきたら、自分でこうどう  
をして、自分でいのちをまもれるようにした  
いです。

千葉優佳

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 ちば ゆうか 年齢 7歳 職業：学校名 小国小学校

0056

わたしが小さいとき、かけだのおまあち  
んの家で、じしんがきました。  
じしんがきたとき、おかあさんが、  
「くるまにのって。」  
といて、ゆうかのいえにかえりました。  
このとき、かみあぐには山だったからよけ  
いにひどいとおもったけど、かけだのほうか  
いどかかったです。  
「二のほうかいいから、いいちのんちばあ  
ちのんちもどまりな。」  
といて二人ともどまりました。  
いえではみんな下にぬまし、あさになら  
たらうしろも外で、雪はちよとしのふり  
ていなひつたから、いいちのんちばあちのん  
ちのいえにひえつていきました。いいちのんちも  
ばあちのんちもふとでよかったです。じしんか  
あったときは、こえをひけていいちのんちもば  
あちのんちもけがをしないうらにはしたいです。

氏名 前田 大翔 年齢 6 歳 職業・学校名 小国小学校

ぼくは、東日本大震災のときアパルトに  
 来ました。夜になると、いしんがおきま  
 した。これ、物はいい、はい、こりました。こ  
 のときにテーパーのしにかくれました。ぼくのた  
 りいなき、ママウスのコ、つかありました。  
 かなしか、大です。つかはしませんでした。か  
 がかりです。でも、つかを、こらりました  
 した。またいしんが起きて、つかありました  
 た。ぼくとうにか、かりしました。小国小学  
 校に来てから運動をやりました。学校で  
 もいしんがなりました。春にいわれて、春に  
 し物ももちてはいました。人でした。  
 こ電が分るみんな、なにはなれなれ、元気です。こ  
 した。こ電。こ電が分る小国小学校でみんな  
 とすこした。みんな、力をあわせてす  
 こした。こ電。

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名山田陽太 年齢 10 歳 職業・学校名 小国小学校

東日本大震災がおきたのは、2011年3  
 月11日でした。地震がおきる前は、おて  
 いました。ぼくが地震がおきたのにきづい  
 たのは、け、こう後の方でした。部屋の中た  
 たので校庭へ行きました。部屋を出てからは、  
 ガラスがわれていました。そして、お母さん  
 がおかえにきました。家についてからは、お  
 ばあちゃんとお姉ちゃんがいきました。  
 その後、お父さんが早く来たので、安心し  
 ました。それに、電気もついて、水もでたの  
 で、もっと安心しました。一番わかかったの  
 は、放しボールがもれたことです。なぜかと  
 いうと、放しボールは、さしボールがあった  
 けど、強い放しボール人が飛んできて、外で遊べ  
 なくなりました。でもボールをせんと、少  
 しは遊べるようになったけど、小国小学校か  
 ら、何人が、転校した人もいました。今度、  
 入学する、弟の同級生も、本当は、もっとい  
 るのに、三人しか、はいらなかったかもしないの  
 で、さびしいです。



氏名 清水 聖也 年齢 10 歳 職業 学生 学校名 小国小学校

ぼくは、しんさりのあと、津波のひがいを  
 見にいきました。家がほとんどながれて、  
 家が半分になっていました。ふたが横たわって  
 いました。車の中がう見ましたが、ずっと通  
 っていて。とてもいこもこれた景色であつた  
 ものはかりでした。ぼくは、とてもいやなま  
 ちになりました。お家かえたら、自分のア  
 パトが、無事だったのでよかったです。おもいま  
 した。

今度は、外で元気にスポーツをさせています。  
 持久走大会では、がんばって二位になりました。  
 た。スポーツががんばって、いよふな体を  
 作って、この手伝いができる人になりたい  
 です。

東日本大震災当時、わたしは、年中で深川に引っ越ししていました。ひな人したのは、わたしとお母さんだけでした。なぜ、おじいちゃんとおばあちゃんには引っ越ししなかったかということ、たぶん放射線を気にしなかったからです。

今は、みんな小国に住んでいます。毎日、毎日、みんな楽しくおしゃべりなどしています。毎日がとても楽しいです。

学校も、とても楽しいです。11年中が楽しくて、6月には二年生から外での運動会、8月には去年リニューアルしたプールでプール開き、11月には、校庭から外にはなれた持久走大会です。1年生の時は、体育館での運動会、8月のプール開きは二年生までなく、深川のプールまで行っていました。11月の持久走大会で二年生まで校庭を囲いました。

わたしは、小国にもど来てよかったなあと思うし、本当に放射線が下がってよかったなあと思いました。

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 八尾 海 年齢 10 歳 職業・学校名 小国小学校

わたしは東日本大震災の時、年中さんでした。ようちんからかえるとき家の前で地しんがおきました。わたしは、地しんがおきたとき「友達かハ酉だな」と、思いました。でも、その次の日にうつうにようちんへかよえました。わたしは、友達に、「きのうはだいじょぶだった？」と、いいました。そして、「わたしのお家はだいじょぶだったよ」と、いつてくれたので安心しました。わたしは、地しんのときは、ものがたおれていたのでびっくりしました。わたしは、今、たくさんお家で作ったものを食べています。なので、とてもうれしいです。来年も、げんはつじて地しんがまたきたら自分の命を自分で守りたいなあと思いました。来年も、お家でたくさん食べものを作っていっぱい食べたいなあと思いました。今日は、外でたくさん遊んで、とてもうれしいです。

氏名 佐藤 東海 年齢 10 歳 職業・学校名 小園小学校

東日本大震災の時は、幼稚園の卒園児  
人でした。わたしは、じしんがおきたときは  
車庫の前でお母さんといきました。ゆれがひど  
か、たので、車庫の前でしゃがんでいました。  
ゆれがおさまったらお母さんが、  
「お家の中はだいじょうぶかな」  
と心配していました。お家の中はこわれてい  
ませんでした。  
小学校に入学したら、運動会が外でできなく  
て体育館でやりました。プールも入れなくて  
やな川のプールに入りました。マラソンも出  
きませんでした。けど、三年生になったら、  
いろいろなことが、外でできるようになりま  
した。たとえば、運動会やプールなどです。  
運動会は体育館よりも外でやる方がいいなと  
思いました。プールもやな川のプールよりも  
自分の学校のプールの方がいいなと思いまし  
た。マラソン大会は、つがれるけどできるよ  
うになったらたのびよか。たです。そして、小園  
が前のようにもよびよってきたのでよか、たです。

東日本大震災がおきた時わたしは、保育園  
 の年中さんでした。その時、保育園の中でね  
 ていたのでおこされた時はびくりました。  
 外にひなんしてほとんどの人は、お母さんが  
 むかえに来ていたのに、わたしのお母さんは  
 風をひいていてすぐにもかえにきてくれませ  
 んでした。ぐあいがわるいので、本当にむか  
 えにくるかなぁと思っていました。  
 そして、ちよとじしんがおさまったので、  
 保育園の中にもどってテレビを見ていました。  
 それでも、お母さんは来ません。さびしかっ  
 たけど先生がいたので安心しました。  
 まだこなのので3時のおやつを食べていまし  
 た。食べ終わるとお母さんがむかえにきてく  
 れました。そのときは、すごくほっとしまし  
 た。家に帰るとたなをたおれていなかっただの  
 でよか、たなをと思われました。その日、お父  
 さんは、仕事場を停電でたけ工場の夕  
 一がとま。たりして早く帰。をきませんでし  
 た。家族がはおれていると心配でした。

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 八島 翔

年齢 11 歳

職業・学校名 伊達市立小国小学校

東日本大震災がおきた日、ぼくは車にのって  
 いた。家の前で地震がおきなにかおこったの  
 かわからなく、ねかしたのを覚えている。  
 近ごろ、学校統合の話がでていいる。なぜ、統  
 合しなければいけないのかと思が。それは、  
 統合が決まれば小学生が新しく入らなくな  
 る。まじまじ、小国小の伝統や地いぎのたとの  
 かわりかなくなってしまうかもしねなにか  
 らです。このことをしている校長先生も、  
 顔を赤くして教育委員会にうたえています。  
 せぬことはやめなさいといっている先生でせ  
 ん。あてにです。それほど、統合とはひさん  
 なものな人だと思ひます。そして、ぼくは絶  
 対に統合に反対です。この話を持ってきた市  
 長の意見に反対です。  
 市長はウソをついていいます。市長は何年か前  
 の選挙で統合はしないといひ出した ですか  
 今は、話がコロコロと変わって統合するとい  
 っています。ぼくは、統合しないことを願うだ  
 けです。

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 佐藤 結夏 年齢 11歳 職業：学校名伊達市立小国小学校

わたしが、ようち園で運動をしていたとき  
 東日本大震災はおきました。その大きな地震  
 で、いろんな問題が出てきているのが現状で  
 す。  
 そのなかで、今霊山町の学校を統合すると  
 いう問題がおこっています。なぜ統合しなけ  
 れはいけないんでしょう。わたし達が通う小  
 国小学校の生徒は23人しかいませんが、と  
 ても楽しくみんなで協力することが学べます。  
 23人という少ない人数でも、がんばって  
 いくことはできないんでしょうか。そして小国  
 小学校では、地域の方とのいろんな経験をす  
 ることができてます。それも、統合をしてしま  
 ったらできなくなってしまうのです。小国小  
 学校でしかできないことでもあります。統合を  
 絶対にするとい、でもわたしは絶対に反対  
 です。そして、わたし達の小国小学校での思  
 出も絶対にきえませぬ。わたしは、市長さん  
 の考えていることがよくわかりませぬ。なぜ  
 なら、小国小学校がとて大事なからです。

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 大波 聖 年齢 11歳 職業 (学校名) 伊達市立小国小学校

ぼくは、3月11日、ようち園生であつた、大  
 きな地震を体験してとてもこわかったです。  
 小学生に上がつて2年生になるころは保育所  
 からいよいよだつた友達が転校してしまいと  
 てもかなしかったです。  
 今、豊山町では統合の話が出ていますが、  
 ぼくは大反対です。なぜかというところ、この小  
 国小学校はとても昔からあるし、小国小学校  
 の伝とうきょうじもなくなつてしまつたらで  
 す。この思い出のある小国小学校をなくして  
 しまつことはげつたいにだめだと思ひます。  
 小国小学校は、人数は少なくともみんなと協  
 力していろんなこともできるし、先生方もみ  
 んなにきちんとおしえてくださるからいい所  
 だけど、統合してしまつたら、ただ人数がふえ  
 るだけで、その学校のとくところをなくして  
 しまつたら、ぼくは統合に大反対です。



「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 渡辺 司 年齢 11 歳 職業 (学校名) 伊達市立小国小学校

ぼくは大震災の時バスに乗って帰る時に大  
 きないしんがおき放しや性物算というものが  
 まきちらされ、1人の友達が転校してしま  
 いました。  
 そこで今この小国小学校がとう合してしま  
 うという話があります。放しやのうがこわい  
 と言、そほかの学校に行、こしまいだんだん  
 人数が少なくな、たから、と言、てまこの小  
 国小学校をなくしたら、30年以上も受けつ  
 がれきた伝統や行事などすべてのことが消  
 されてしまいます。それにこの小国小学校は  
 地いきと協力してこの小国小学校を支えてい  
 ます。ぼくたちがいやだと言、ても聞く耳を  
 持たずおりやり、とう合するのはいやだ。ぼ  
 くたちの小国のいいところは大きな学務等  
 も分からないところをばしてしまければど  
 この小国小学校はちがいます。たからこの小  
 国のいい所まで消されてしまいます。たから  
 とう合には大変です。

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 菅野 友樹

年齢 10 歳

職業・学校名

伊達市立小国小学校

ぼくは保育園のとき、とつぜん地しんがき  
 ました。ぼくはもうこの世の終わりだという  
 ほどこわくてたまりませんでした。そしてぼ  
 くは1年生になりました。最初は学校はどん  
 が所なんでしょうかと思いましたがみんなが  
 さしくしてくれました。でもみんなを校し  
 ていってしまいました。こんないい学校なの  
 に統合するということがながれてきました。  
 その時ぼくは心の中でこう思いました。「こ  
 んなにみんながさしくて楽しい行事がいっ  
 ぱいあるのになくなってしまう」と思いまし  
 た。そして統合したらこの学校はどうなっ  
 てしまうのか、小国の子供はどうなっ  
 てしまうのかぼくはしんぱいです。だからぼくは統合  
 は反対です。小国の子供がどんなに少なくな  
 らないとしても統合はせつたいいやだ統合な  
 らないでくれー。

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 菅野 優衣 年齢 12 歳 職業・学校名 伊達市立小国小学校

私の学校は、震災で全校生徒数が減ってしま  
 った。友達も1人、また1人といなくな  
 ってしまった。なせそこまでにな、ってしまった  
 のだろうか。放射線が高いからである。でも  
 私たちは、この小国に放射線が高くても、小  
 国にいたいからこの小国小学校が好きだから  
 今までがんば、てきたんだ。

今、この霊山町4つの小学校が1つになる  
 学校統合の話が上が、ている。なせこのとて  
 も歴史のある小国小学校がなくな、てしまわ  
 なければならぬのだろうか。人数が少なく  
 な、てしま、てもみんなで力を合わせてがん  
 ば、てきたのに、どうして1つにされないとい  
 けないのか。私の小学校が思い出がなくな  
 ってしまう。今、入、っている1年生が6年生  
 になると、統合されてしまう。小国に入、て  
 5年間も小国小ですぶすのに、思い出も全部  
 統合1つで消えてしまうし、卒業証書をも  
 げえなくな、てしまう。あなただ、たら、こ  
 の統合の話はどう思いますか？

氏名 横山 悠斗 年齢 12 歳 職業・学校名 伊達市小国小学校

ぼくたちの学校の人数は、23人です。3  
 / / がこなかつた時までは、60人以上いた  
 のに、放射能で転校していくお友達が多か  
 たです。  
 でも、小国が復興しつつあるのに4つの学  
 校が統合されると聞いてびっくりしました。  
 4年後とは聞いています。でも、自分たちが  
 育った小国小学校がなくなるなんていやです。  
 こんなばかな話がありますか。自分たちの文  
 化、だんごさしやまめまきなどがなくなっ  
 て  
 しまうなんて考えられません。  
 こんな統合を考えるのは、おかしくないで  
 すか。統合してしまつたら自分の学校や他の  
 学校を守れなくなるので統合は、しない方が  
 いいと思います。統合をしなければ、文化や  
 自分の学校をずっと守れるのでいいというの  
 がぼくの意見です。  
 この、ぼくの意見を見て学校や文化の大切  
 さを知ってもらえれば、4つの学校の統合は  
 なくなるでしょう。

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 菅野 颯

年齢 12 歳

職業：学校名 伊達市立小国小学校

私の学校は、放射能が飛んできて、せんり
ょうが上ったため、外で体育ができなかつた
り、運動会、プール学習などもできませんで
した。でも、小国は、がんばってここまでき
ました。6年間もお世話にな、たこの学校が
私は、大好きでした。それなのに、先日新聞
に、学校統合という記事がのっていました。
私は、その話を聞いた時、イライラしていま
した。この学校には、いろいろな思い出があ
ったのに、統合をなんて、とてもひどいと思
いませんか？
伊達市の政治の人に言いたいです。
「33年も続いた学校の伝統をこわすなんて、
ひどいよ」
この学校では、いろいろな、体験学習などを
しています。地域の人達とのふれ合いもでき
なくなります。私は、このような体験学習や
ふれ合いをする学校に入って本当によかった
と思います。だから、この学校の統合に、反
対します。

ぼくが、1年生のときに東日本大震災がお  
 きました。地震のせいで同じクラスの友達が  
 3人も転校しました。しかも、ぼくが、番  
 組みにしていた外での体育や外遊びもできな  
 くなりました。こんなひどい目にあってい  
 る小国なのに、今、学校統合という話が出て  
 います。ぼくは、ずっと小国で生活してま  
 した。なのでぼくは、小国が大好きです。

転校した友達がいなくなったからぼくたちは小国  
 に残りました。なせならぼくは小国が大好きで  
 す。それなのに学校統合なんてぼくはゆるせ  
 ない。ぼくたちが守ってきた小国小がなくな  
 ってしまうなんてありえない。小国小がなくな  
 ったら校歌、運動着など全てなくなります。  
 しかも、小国小では、門松作り、たんこぶし  
 やスキー教室など他の学校ではやっていない  
 ことをやっているのもそれもなくなります。  
 なのでぼくは学校統合に反対です。

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名大沼系也一郎 年齢11歳 職業・学校名伊達市立小国小学校

ぼくは、東日本大震災でとてもひどい思い  
 をしています。同じクラスの人が転校したり  
 ふく式になったりしました。理由は、放射能  
 がとんできたからです。  
 そして今も、小国小学校は、問題に直面し  
 ています。それは、4つの小学校が統合する  
 という問題です。ぼくは、統合に反対しま  
 す。その理由は、小学校がつぶれるといろい  
 ろな物がなくなります。校歌がなくなると  
 そして地域の人とのふれあいもなくなります。  
 そして小国の人々が統合した地域の方に行って  
 しまえば小国の人口も減ってしまうからです。  
 それなのに4つの小学校を統合させるという  
 ことがあります。そしてぼくたちが6年間毎  
 日のようにかよっていた小国小がなくなっ  
 てしまうことが一番悲しいです。このようなこ  
 とをしようとしている伊達市は、何を考  
 えているのか、さっぱり分かりません。ぼくは、  
 これからも小国小が残った地域とのふれあいを  
 大切にしてほしいと思います。

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 堀谷莉紗 年齢 11歳 職業・学校名 大平小

0074

2011年3月11日午後2時46分東日本大  
震災が発生したのです。  
わたしは、当時6才でした。その地震が発  
生したとき、わたしは、7人で2階にいまし  
た。その時の恐怖は今でも忘れません。  
しおれんの住んでいる二本松市は、海辺では  
なか。たので、津波はこなか。たので良か。  
たのですが、海辺の地域は、大きな津波がき  
て、家も人も流されて、七な。た人もいます。  
令でも、行方不明の人だ。ています。とても  
悲しい日々が続きました。  
でも、ずっとこのままではいられないので  
す。わたしたちが1人1人やれることをやら  
なくてはなりません。わたしたちが1歩1歩  
進んでいかなければならないのです。1人だ  
けがきずついたのでありません。福島のみ  
んなでがんばりましょう。  
わたしたちは、震災の前の福島にもどせる  
ように、がんばります。1人はみんなのため  
に、みんなは1人のために。



0075

「東日本大震災の体験記と復興への願い」藤田純

匿名希望

こわかった東日本大震災  
 この時私は、もたもたした。  
 私はいつもどおりの生活でしたが、急にじ  
 りんがきました。最初は、平気でしたがだん  
 だん大きくなり、お母さんが「外に、にげる  
 も言っ出して私はくつを持ってにげました。  
 お母さんは、妹がいなかったのでも妹の  
 名前をよびました。そして、お母さんは弟を  
 おんぶして、妹をだっこしてにげてきました。  
 家のまじはがタガタで、電線もユラユラ  
 めれて、家中がギシギシ聞こえて、「ままで  
 感じたことがないきょうを感じました。  
 見えかち、原三の発電所がぼくぞう放射線  
 という目に見えない物との生活が始まりました。  
 毎日マスクをして、外でも遊ぶづにつら  
 い思いをしました。  
 まだ震災前の生活にもどったとは言えない  
 ので、早くもどりたいです。  
 私は、二度とこのようないけんがないお  
 うに願います。

(20文字 × 20行)

氏名 和田利央

年齢 13 歳

職業

学校名 平第一中学校

私が東日本大震災を経験したのは、小学校  
 低学年の時だった。家が失われたわけではな  
 いが、ライブラリーがストロパシ、水くみ生  
 活を送った。スーパーに食品が並ぶ、食べ  
 ることにも苦労する日々を送ったことを今  
 ても覚えてる。大きな音を響かせてくる震  
 度五程度の地震に、毎日びくびくしながら生  
 活を送ったことも、心や体に『しみみ』と  
 う形を今も、私の中に存在している。  
 ある時、親せきや知人に助けられ、「人々  
 て、みんなに温かいんだ」と、この時始めて  
 知り、素直に感謝の気持ちも持てた。  
 しかし、私の中に残った『喪失感』がど  
 うしても満たさず、誰かに頼りに相談し、  
 楽になりたいというも思っていた。  
 だから、子供、大人、老人。みんなが自分  
 の思いを吐き出せる、そんな存在が人の心を  
 支え、しつこくなければ、人の未来は切り開か  
 れないのではないかと思う。

氏名 渡邊 大 年齢 12歳 職業 (学校名) 宮沢 小学校

3月11日、ぼくはあの日を忘れない。あの  
 日ぼくはまだ一瞬生だった。来年入学してく  
 る人たちへのプレゼントを友達と作っていた。  
 そのプレゼントを先生に渡し廊下に向かっ  
 ていく、その瞬間大きな地震鳴りどととに地  
 面がゆれた。始めはどうしてゆれている  
 のか分からなかった。先生に「机の下にかく  
 れて！」と言われて急いで机の下にかくれた。  
 机をじっかきりかんといてもゆれた。こわが  
 った。泣き出す音がした。しばらくして地震  
 のゆれはおさまった。アナウンサーがゆれて  
 ぼく達は幼稚園室へ向かった。みんな不安な  
 うな顔をしている。その後、両親の車とに帰  
 された。家へ来た。だが家に帰るとしても  
 ぼろぼろいた。プリンターも皿が落ちていた。ど  
 き何よりあどろいたのはテレビを見た。津波と  
 原発の爆発だった。本当に今がおどろいて  
 言のがたりと思った。その後も上震が続いた。  
 次に原発が爆発した。想像したなかつた事  
 が突然起きた。熱い水が

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 門島 裕修 年齢 11 歳 職業 〃 学校名 二本松市立旭小中学校

地しんの直後私の家族はお父さんを福島に残  
 して栃木県へ避難しました。私は、涙もあか  
 らず、幼稚園の卒園式でおえるはずの、友  
 達と突然はなれはなれにな、てしまい悲しく  
 なりました。栃木の小学校へ入学し、不慣れ  
 ったけと次第に慣れてきました。でも、福島  
 を忘れた訳ではなくて、皆に会いたいと思  
 えました。三年生の夏休みに福島に戻、てま  
 ました。皆に会えることが、右のは最初  
 たけで、色々な考えの湧いてよくウツカにな  
 ったり陰口を言われるようになり、幼稚園の  
 頃のように皆で仲良くてもなくなりました。  
 私が福島をはなれた事でもお苦にな、てしま  
 ったのが、避難者に対する目かきびしいとは  
 聞いていたけれど、私にはよくわからないと思  
 っていました。立場が違うとこんな事になる  
 んだとおおりました。私は、多くの避難者が  
 安心して暮る福島県になるには、心の復興が大  
 切だと思います。私は笑う門には福島県と言え  
 る、思いやりのある福島にな、てほしいです

平成23年3月11日からもうすぐ5年目をむかえようとしている。私は震災後も小高区にある医療機関に勤務している。約4年ぶりに再会したある患者さんは1年間も体調不良が続き表情に苦悩が表れていた。独居に限らず環境の変化は、特に夜かつらりと聞く。昼間は気もまわれるが夜は、この地を離れたくないと望む人ほど悩みは深まると思う。

高齢者が小高に戻り完全でなくとも充実感を取り戻せるようにするには？と考えてみた。

①高齢者の方々は、とりわけ畑や野菜作りが上手で、漬物は絶品である。都会でも家庭菜園に興味を持つ人もいるし実際にしている人もいる。長年培ってきたノウハウを指導したりでまゐる。

②ケアハウスの様な共同生活で互いの気配を感じられるような居住空間が良いと思う。

③医療機関の思いとして交通手段の充実を願う。電車はもとより町の外出移動できる一まちターミネーの復活を希望する。

患者さんの希望になれりよう頑張りたい。

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 北井 健一郎 年齢 15 歳 職業・学校名 北津中学校

その朝日を眺めると、不謹慎にも「とても  
 キレイだ」と思いました。2011年3月1  
 2日、震災の翌日私は父と姉と一緒に沿岸の  
 様子を見に行きました。海へ向かう途中もい  
 つも見えていた景色と同じものは一つもあ  
 りませんでした。津波の被害が屋根まで泥ま  
 った家や柱だけ残った家もありました。  
 破壊した堤防や、そのへんの道に転がって  
 いる船、この間までの面影を向一つとして残  
 っていないほどにぐちゃぐちゃになっ  
 ている住宅街。自然というものはな  
 らざるに、残酷なものだ  
 うかと思いました。ですが高台からあの朝日  
 を見た時、その感情を瞬時に忘  
 れてしまいました。それほどまでに美  
 しかったの覚えています。地震や津波の被害で  
 がらみながらも、照らして行く太陽の神々  
 しさ、鳥肌が立ちました。自然というものは恐  
 しいものだ、と僕は感じました。自然界の破壊力  
 と美しさは決して勝てない、この時感じ  
 た畏怖の念を、僕は一生忘れません。

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 やがしろかな 年齢 8歳 職業・学校名 おい川小学校

0081

東日本大しんさいがおきた時わたしはまだ  
 3才でした。何もおぼえていないのでその時  
 のようすを母に聞きました。母は、3週間後  
 に妹が生まれる前のじゅんぴで車をうんでん  
 していた時に大じしんがおき、びっくりして  
 しんぱいになりわたしとおにいさんのいるお  
 ばあちゃんの家にいそいでもどって来たそう  
 です。母は、おなかの赤ちゃんが生まれそう  
 でもがんばっていたんだなあと思いました。  
 それから、わたしが大きくなって大しんさい  
 の時のようすをテレビでよく見ました。つな  
 みで家がさがれてまだ今も見つからない人た  
 ちがたくさんいることは、とてもかなしいこと  
 だと思います。まっている家ぞくのところに  
 早くかえれるといいなあとお心からいって  
 います。そのほかに、つなみで家をさがされ  
 たり、ほうしゅうのうでびょう気がしんぱいで家  
 はすめなくなりひらこしをしている人がた  
 くさんいることは、とてもつらいです。家にも  
 どれくらいかえらばいいかなあと思っています。

匿名希望

震災の時、昼寝をしていた3才の息子を急いで起こして抱きかかえ、左右に大きく揺れる自宅の階段を必死に下り、一階のテーブルの下に身を寄せ、揺れがおさまるのを待ちました。その時は、津波・原発がどれほどおそろしいものなのか、全く理解できていませんでした。津波の被害はありませんでしたが、原発の放射性物質の問題により、いわき市でも屋内退避をする状況になり、子供は外遊びが出来ず、大人にも不安だけが残りました。子供のために自主避難をしましたが、同じ日本なのに埼玉や神奈川の人達はいつも通りの生活を送っており、「なぜ私達だけが」という思いでいっぱいでした。

当時3才だ、た息子も、もうすぐ8才です。妹も生まれ、二人共元気に成長しています。原発の問題は、この子供達の成人後もずっと続くのです。私達と同じ思いをする子供達には絶対にさせたくない。だから原発に頼らずに自然の力で発電する事を考えるべきなのだと思います。



「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 渡部 百枝 年齢 47 歳 職業・学校名 教員・下郷町立旭田小学校

大津波に町が飲み込まれた震災から6日後、  
 私は、両親が生きていること、そして避難し  
 ている所が分かったので、南会津町からいわ  
 きの中央台東小学校へ車で向かいました。そ  
 の途中に立ち寄り、たお菓子屋さんでのことだ  
 す。私がものすごく着込んでいたので、どう  
 したのかを尋ねられ、事情を話すと、すぐに  
 知り合いの給油所に電話をしてくれました。  
 その上、私が注文したお菓子のほかにお店に  
 並んでいたお菓子を袋にたくさん詰めてくれ  
 たのです。涙を流しながら。そして、駐車場  
 で給油所の車を待っていると、今度はその店  
 のおばあちゃんがホッカイロをたくさん持っ  
 て出てきてくれて、それを私にくれました。  
 ガソリンがない、食べ物がない、寒い。も  
 のすごく大変なときに、私は、人の心の温か  
 さ、他人を思いやる心に触れ、そのありがた  
 さをかみしめながら避難所に向かうことがで  
 きました。困っている人を思いやり、助け合  
 う心の大切さを強く感じた体験でした。

(20文字 × 20行)

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 今泉まひろ 年齢 11 歳 職業・学校名 滝根小学校

わたしが、東日本大震災の経験で思った事  
 経験したことは、わたしはそのころは、よう  
 ち園にかよって行って3月ごろは卒園式の  
 練習などをしていったじきでした。その3月ご  
 ろに東日本大震災がおこりました。3月11日  
 はくわたしは家にいました。いきなり地震が  
 おきて、わたしとお母さんは、ダッシュで  
 外へかけだしました。とても怖かったです。  
 また、東日本大震災がゆめたので、わたしは  
 は、ようち園の卒園式が出来ませんでした。  
 せっかく今まで練習してきたことと、クラス  
 みんなと卒園式が出来なかったため今でもシ  
 ェックを受けています。

また復興への想いは、東日本大震災で亡く  
 なってしまった人や、今、苦しんでいる人のた  
 めに、私は自分で出来ることや、ボランティア  
 活動、食べ物や、物、服などをきふするな  
 どをすれば少しは、復興へつながると思いま  
 す。

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 半澤 璃子 年齢 7 歳 職業・学校名 月舘小学校

わたしは、ひがし日本だいしんさいのときろ  
 さいでした。ち、ちいころだ、だから、そ  
 んなにおぼえていないけど、<sup>(ほいくえんの)</sup>えんていで、お  
 むかえを、まっていたのは、おぼえています  
 わたしのかぞくは、バラバラにひなんしまし  
 た。お父さんは、きゅうめいしのしげんのた  
 めとうきょうに行きました。バアバとじいじ  
 とパパのおとうとは、しごとがあるため、え  
 くしまにのこりました。わたしと、おとうと  
 と、おかあさんと、おばあちゃんは、はだの  
 のおばあちゃんのいえにひなんしました。かぞ  
 くがバラバラになるのは、さみしいです。  
 まだちいきにもどれてない人やかぞくとはな  
 れている人もいるので、ちいきにもどれるよ  
 う、かぞくにあえるようにわたしもどりよく  
 をして、ちいきやかぞくにあえるようかんば  
 りたいです。



## 「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 反川 未悠 年齢 13 歳 職業・学校名 須賀川市立 大東中学校

私	は	今	も	あ	の	日	、	私	達	を	お	そ	つ	た	地	震	、		
東	日	本	大	震	災	の	事	は	ハ	ッ	キ	リ	と	覚	え	て	い	ま	す
あ	の	日	私	は	家	に	い	ま	し	た	。	テ	レ	ビ	を	お	て	い	る
と	画	面	に	は	緊	急	地	震	速	報	と	い	う	文	字	が	大	き	く
で	ま	し	た	。	最	初	は	び	っ	く	り	よ	り	も	何	が	起	き	た
の	か	分	か	ら	が	い	ま	し	た	。	そ	の	う	ち	、	ゆ	れ	始	め
少	し	の	ゆ	れ	が	ら	縦	や	横	に	大	き	な	ゆ	れ	を	感	じ	た
と	、	て	も	怖	か	っ	た	。	泣	い	た	。							
し	か	し	、	近	く	に	は	自	分	よ	り	十	歳	下	の	弟	が	い	り
ま	じ	た	。	弟	は	も	ち	ろ	ん	年	が	下	が	し	体	が	小	さ	く
私	よ	り	も	た	く	さん	泣	い	て	い	た	。	そ	れ	を	お	て	私	は
は	、	私	は	弟	姉	ち	ゃ	ん	が	ら	と	思	い	、	泣	く	の	を	
お	つ	と	二	ら	え	て	い	た	。	ゆ	れ	が	お	さ	ま	っ	て	か	ら
も	体	が	震	れ	、	止	ま	ら	な	か	っ	た	。	そ	れ	ら	の	事	は
今	で	も	忘	れ	ら	れ	な	い	記	憶	で	す	。						
今	も	も	少	し	の	ゆ	れ	を	感	じ	る	と	す	べ	に	、	誰	よ	
り	も	先	に	分	か	り	ま	す	。	も	う	あ	ん	な	大	き	い	地	震
が	二	好	い	か	不	安	だ	い	っ	ほ	い	で	す	。	ま	た	い	つ	く
る	か	あ	か	ら	好	い	の	で	、	怖	い	で	す	。	次	大	き	な	地
震	が	来	たら	福	島	県	は	ど	う	な	る	か	不	安	で	す	。		

氏名 武藤 泉美 年齢 11歳 職業・学校名 郡山市立柴宮小学校

大きなきずあとを残した東日本大震災

柴宮小学校 五年

武藤 泉美

東日本大震災は、私が、五才の時に、おこ  
りました。私は、ほこくしゅで、おひるねを  
をして、おきた時に、おこりました。その時  
は、おぼけていたので、あまりおぼえていな  
いのですが、みんなが、

「かわい。かわい。」

と、何度もいってました。

あれから、もうすぐで五年です。井い、郡  
山市は、うねりも、火事も、おきませんでし  
たが、三月に、雪がふたり、一、二年生お  
で、放しや線のせいで、プールに入れなか  
たり、外であそぶなかたりしてました。

いまでも、おだん、こつして、いかに、村や、  
町おどかあります。おれ大人に、おのり、お  
おだん、こつして、いかに、所も、震災がおきる  
潮のちんち、に、おだか、おだか、町にも、こつ  
て、おしこです。

東日本大震災があった日、私はまだ一年生  
でした。私は本を読むのが好きだ、たので、  
図書館に行、て本を借りるのも少くはあり  
ませんでした。震災があ、たその日も、母と  
姉と私の三人で中央図書館に行、ていました。  
中央図書館は、とても広くて本もたくさんあ  
ったのですごく気に入っていました。ですが  
突然、いろいろな大人の人携帯電話から全  
く同じ音が聞こえてきたのです。しかも、音  
楽ではなく少しゾッとするような着信音のよ  
うなもので、ん、おかしいぞ、と誰もが思う  
であろう音でした。するとその直後、小さな  
ゆれが起き始め、そのゆれはだんだんと大き  
くなり、私の両あきにあ、た本だなから一冊  
二冊、と本が上から落ちてきました。一人で  
怖くてふるえていると、母と姉が走、て来て  
くれて三人で外に出ました。自動ドアの上  
にある窓もガラスが割れて落ちてきていました。  
外に出てもゆれが大きく立、ていられない程  
でした。とても怖か、たです。

氏名 安部 雪慧 年齢 10 歳 職業・学校名 郡山市立柴宮小学校

今の世代にできること

安部 雪慧

わたしは今の時、幼稚園の年長でその時教室で友だちとオセロで遊んでいたことを憶えています。さらに憶えていることがいっぱいあります。

そしてよく憶えていることの一つ目は、校舎と校底のコンクリートと土が地震の揺れで分かれてしまっていました。ですが、その地震よりこわい、何人も死んでしまうような津

波がいろいろな場所で起こる。大したことでは。今の地震しかなが、大福島県がとてもし幸いに思えるぐらいです。今の状況でおたしたちができるのは、募金や物などを寄付、ボランティアなどをするのが今できることです。

さいごにこれからはどんな被害があっても勇気を出していろいろな橋かをもとに助け合えるようにいろいろな被害に関係することをボランティアなどで助け合いながら勇気をつけようと思います。



氏名 田邊 響 年齢 11 歳 職業・学校名 郡山市立柴宮小学校

二〇一一年三月十一日に東日本大しん災が  
 ありました。大きな地しんにおかれ、津波  
 も発生し、福島県では原発事故も起き、大平  
 洋の海沿いの他い土地では津波で家が流され  
 たり、郡山市とは全くちがう大きな災害がお  
 くれました。津波で家族が死にいたるなどと  
 人々にとって大きな悲しみとなりました。  
 ぼくにとってこの日は地しんのこわさを知  
 る日でした。柵の上の物が落下し、机にもぐ  
 て自分を守る大切さを知りました。以前に本  
 で地しんについて読んで、何となく机にもぐ  
 てればいいと思っでいましたが、あの時は  
 してもきん張感がありました。左右にすべろ  
 うようにゆれる床がとても気持ち悪かっただです。  
 復興を進めるためにぼくが大切だと思っ  
 ことは、一人一人が希望を失わないことだと思  
 います。悲しい気持ちをずっとおがえている  
 だけでは何も変わらな思ひのです。これからも  
 復興を進めて行き、子孫が安心してくらせる  
 町を作っていくことが大事だと思ひます。

氏名 近藤 穂華 年齢 11 歳 職業・学校名 郡山市立柴宮小学校

## 東日本大震災で学んだこと

近藤 穂華

幼稚園年長の時に震災がありました。帰  
て来いすぐに祖母と日本地図穴ズルをしてい  
た時でした。私はすぐに玄関を開けに行きま  
した。水がすそく下で色急倒れてきて外に  
にびました。近所の人の車の中にみんなで  
びて、テレビを見て事の重大さに泣いていま  
した。とてもさわくくそれが外に出れなく  
なりました。小学校入学しても風の音、雨が

さわくくしてはらくは、お母さんに迎えに来い  
もらってました。本当にウラカ、た下す。

日頃から震災があつた時に、必要な食べ物  
や水、がソリン、トイレ、明かりの確保など  
準備しておく必要性が分かりました。また震  
災がおきた時、今度はあなたが子どもたちを  
守らないとね。とかほおのところで震災がお  
きたら次は、「私たちが助けようね。」など話  
をしました。東日本大震災でおきたことを  
可れないで次の世代にも伝えていきたいです。

## 「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

匿名希望

東日本大しんさい  
 わたしは、東日本大しんさいにあいました。  
 その時は、まだろういだ、たのでその時  
 のことは、そのときはまだ小さか、たです。  
 でもよくその時のこと、その前のことは、  
 よくおぼえています。そこは、わたしの大  
 切なふるさとでした。わたしのひいおじい  
 ち、んが、いっしょうけんめいたててくれた  
 大切なふるさとだ、たからこわれないうちに  
 たまにてんけんをしていました。でも、その  
 時のじしんは、ひどか、たのでいえのや相が  
 ぜんぶくずれてしま、て、上から見ると、中  
 は中しかくです、ごく大ぢい紙をかぶせると、  
 中しかくのサイコロみたいでした。いそいで  
 にけましたか、車のガソリンが少なくな、て  
 いて、へへんびした。  
 東日本大しんさいにあ、た人へのメッセージ  
 東日本大しんさいでいのちをうしな、た人、  
 お母さん、お父さん、子どもをなくした人つ  
 らそうですけどがんば、てください。

## 匿名希望

東日本大震災の、てなには。わたしはぜんぜんおぼえていません。おとうさんとおかあさんに聞いたらわたしが3歳のころにおこった大きなじしんのことです。とうじ、わたしたちのすんでいる会津にはあまり大きなひかいはなかったが、わたしのしらない町には、大きなつなみかきでいろいろな大きなひかいがおこったそうです。

わたしが、知っているのは、ほうしせんのことです。それは学校でべんきょうしました。ほうしせんは、見えないもので、あじもにおいもしません。でも、空気のようにわたしたちのまわりにいいます。たくさんあひると、人間のからだかひもうぎなります。ほうしせんをはかるきかいを見たことがあります。わたしの学校と家のちかくの公園にもあります。みなさんもじゅういんかきをつけてくだ

し。

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 藤原康太郎 年齢 9 歳 職業・学校名

小金井小学校

東日本大震災がありました。当時、ぼくはようち園の年少でした。先生が、すつくえの下にかくれなさい。と言いました。いつまでも大きく外れていて、とあか、たのをおぼえていま。家に帰るとからテレビを見ていると、海側町に向か、て流れてきて、高い所に人が大ぜいひなんしていました。あ、という間に家や車が水にのみこまれてしまいました。と、ともあか、たです。あとであれがなみだということを知りました。

それから四年半たちますがあの時の人たちは、どのような思いでいるのでしょうか。

家をなくした人、家族や友人をなくした人たちの気持ちを考えると、消えることの深い悲しみを感心します。

震災にあ、た人たちが、少しでも早く元の生活にもいれるようにあか、ています。そして、一日も早く心の元気を取りもとし、前に向か、て歩いてい、てほしいと思います。

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 庄司 愛

年齢 9 歳

職業・学校名 小金井小学校

東日本大しんさいがおきた時は、わたしは  
 まだほいく園じできおくかほとんどありませ  
 んでした。親に話を聞きとても悲しい気持ち  
 になりました。じしんがおきた時は、大雪が  
 ふりとても寒か、たです。わたしも、広場で  
 ひなんをしてお母さんがお帰に来るのをま、  
 ていました。そして、家に帰ると日本じゅう  
 が大じしんにな、ていたことを聞きおどろき  
 ました。

あれから、4年たち東日本大しんさいで分  
 か、たことが色々あります。

1つ目は、げんしりょく発電所事故でした。

2つ目は、ふうひょうちがいでした。

今は、この2つは、まだもとにはもと、て  
 いませんが人のきけんな目にはあわせないよ  
 うに一早くもどしてもらいたいです。げんし  
 りょく発電所では、電気を作、ていて東日本  
 大しんさいでげんしりょく発電所が事故にあ  
 ったと聞きました。あと、ほうしゃせんもで  
 てきました。これからは、私たちがたくさ

の人の力になれるようになりたいと(20文字×20行)  
 思います。

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 吉田 萌 笑

年齢 10 歳

職業・学校名 小倉井小学校

東日本大震災

わたしがほうち園にいた時、大きないしん  
 がありました。ようち園のグラウンドに集まり  
 ブル-シートをひいてみんなで集まりました。  
 みんなおりたから安心だ。たけど、もうち園  
 がこわれるんじやないの。お父さんたちが、  
 むかえに来てくれるかな、とわい子んな不安  
 がありました。でもほうち園がこわれなくて  
 よか、たと思ひます。お父さんがむかえに来  
 てくれたのでよか、たと思ひました。

それからまた何回かいしんがありました。  
 それでたくさんの人がおちたんしました。それ  
 につなみでたくさんの人がお家外無くなりまし  
 た。たからわたしは、おちたんしてりる人たち  
 に家かむどり、安心してくらせるよくな、町  
 し村)たもど、てほしりと思ひます。

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 星 なちか 年齢 11 歳 職業・学校名 小金井小學校

東日本大震災が起きた時、私はようち園でみんななどで発表会に向けてダンスの練習をしていました。その時は雷気がいきなり消え、流れていた曲もとまりました。ようち園の先生たちも急いでみんなをつくえの下などにひな人させてドキドキしながらおさまるのを待っていましたか、泣く子やさわぎあめく子がたくさんいました。

会津若松市はあまりひ害はありませんでしたが、他の地いきではたくさんの人たちがひ害に合、たと思うと、本当に助かったのは良かったことだと改めて思い、復興できるためになにか私にできることはないのかと思いました。浜通りの方は特にたいへんだったことを知って、同じ年の子もお年よりの方もその地いきに住んでいた人の願いをかなえるために、ほ金活動や工事をいつでも行っていることに感じしました。

今は何もできなけれど、復興が1日でも早くできることを応えんしています。



「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 大野 愛佳

年齢 11 歳

職業・学校名 小金井小学校

2011年3月11日、地震によって発生  
 した津波による災害は、死者、行方不明者を  
 1万8000人以上およぼしました。幼稚園  
 生だ。た私はあの時、こんな大きな災害が起  
 きているとは思っていませんでした。地震が  
 発生した日から何日か後、いわき市に住んで  
 いたお母さんの友達の家族が和の家に来て  
 きました。その家族は津波と原発事故で家に  
 住めなくなり、親せきの人たちにもことあら  
 れこまっていたと聞きました。ニュースで見  
 た津波の後の光景は、一面茶色でとてもあれ  
 ていました。その光景を見た私は、災害のお  
 そろしさを知りました。

東日本大震災復興のため、協力しさえ合  
 づていくことが大切だと思います。この体験  
 は決してわすれてはいけないうものだと思います。  
 少しずつ前進し、震災の前の東北地  
 方をとりもどして行ってほしいです。そして  
 家族の絆を深め、もっと明るい未来を  
 指してほしいと思います。

(20文字×20行)

## 「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 星あかり

年齢 10 歳

職業・学校名 小金井小学校

東	日	本	大	震	災	の	2	0	1	1	年	3	月	1	1	日	は	、	私	は
幼	稚	園	の	年	長	で	し	た	。	ま	だ	幼	稚	園	の	中	に	い	て	、
も	の	す	ご	く	や	れ	た	の	を	覚	え	て	い	ま	す	。	泣	い	て	
い	た	友	達	も	い	ま	し	た	。	す	ご	く	こ	わ	が	。	た	で	す	。
東	日	本	大	震	災	で	は	、	私	の	お	じ	い	ち	ゃ	ん	と	お		
ば	あ	ち	ゃ	ん	も	津	波	で	せ	く	な	り	ま	し	た	。	う	ち	に	
は	、	仏	た	ん	は	あ	り	ま	せ	ん	か	、	山	さ	な	テ	ー	ガ	ル	
に	お	じ	い	ち	ゃ	ん	と	お	ば	あ	ち	ゃ	ん	の	写	真	が	飾	。	
て	あ	り	ま	す	。	何	か	あ	る	と	2	人	の	写	真	に	報	告	を	
し	て	い	ま	す	。	賞	状	や	通	信	ほ	も	見	せ	て	い	ま	す	。	
あ	る	時	は	、	手	を	あ	や	せ	て	お	願	い	事	も	し	ま	す	。	
見	守	っ	て	く	れ	て	い	る	気	も	し	ま	す	。	私	の	住	ん	で	
い	る	町	に	も	ひ	た	ん	し	て	い	る	人	が	い	ま	す	。	お	母	
さ	ん	は	仮	設	住	宅	で	仕	事	し	て	い	ま	す	が	、	少	し	か	
つ	も	ど	。	て	い	る	と	言	っ	て	い	ま	す	。	ま	ろ	こ	ぶ	事	
な	ん	た	け	と	さ	か	し	い	と	言	っ	て	い	ま	す	。	あ	の	日	
に	大	変	な	思	い	、	悲	し	い	思	い	を	し	た	人	が	少	し	で	
も	元	気	に	な	る	ほ	ど	い	と	思	い	ま	す	。	ニ	コ	ー	ス	で	
ひ	さ	い	地	の	明	な	い	話	題	を	關	と	う	れ	し	く	な	り		
ま	す	。																		

(20文字 × 20行)